



業況DI値、建設業を除き低下

令和3年7～9月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和3年7～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率67.0%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲36.8で前回(2021年4月～6月)より18.9ポイント減少。今回は建設業8.7ポイントで改善傾向を示し、製造・卸売・小売・サービス業は減少傾向を示しました。

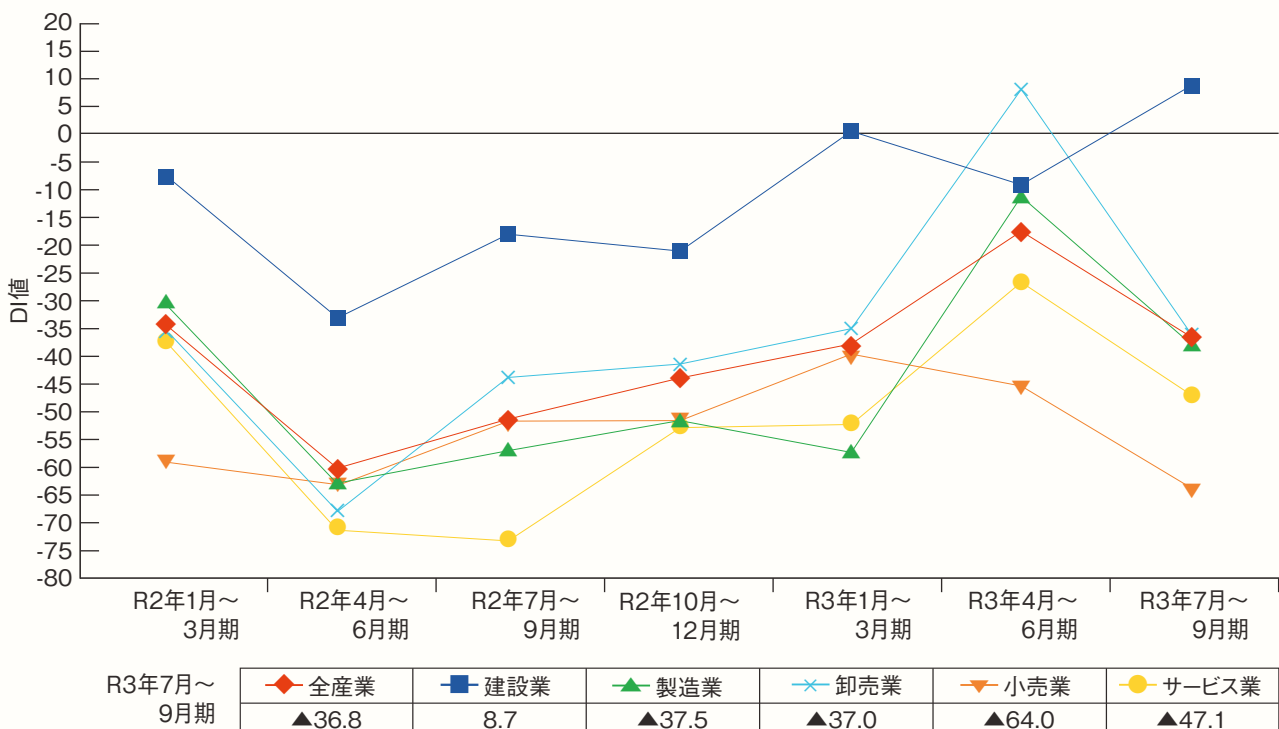
全産業売上高の推移：前回▲11.1ポイント(2021年4月～6月)から23.2ポイント減少しました。小売業▲60.0ポイント、消費者ニーズの変化への対応が課題として挙げられました。

全産業資金繰りの動向：前回▲8.3ポイント(2021年4月～6月)から10.6ポイント減少しました。製造業▲37.5ポイント、一部商品の仕入難および受注量の減少への対応が課題として挙げられました。

全産業採算の動向：前回▲25.9ポイント(2021年4月～6月)から15.9ポイント減少しました。建設業を除く産業で減少傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回4.8ポイント(2021年4月～6月)から5.0ポイント減少しました。サービス業▲9.1ポイントで人手不足感が強まりました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000